

第2回 櫛田川流域委員会 議事要旨(案)

中部地方整備局では、「櫛田川水系河川整備計画(大臣管理区間)」を策定するにあたり、第1回の櫛田川流域委員会での御意見を踏まえ作成した「櫛田川の現状と課題(案)」についてご意見を頂くため、第2回櫛田川流域委員会を開催した。

第2回の流域委員会では、櫛田川の現状と課題(案)、今後の流域委員会の進め方等について審議を行った。

第2回委員会での審議事項と議事要旨は以下のとおりである。

【開催日時等】

日時：平成15年6月20日(金) 13:00～15:00

会場：ホテルグリーンパーク津 6F 伊勢の間

【出席者】

岩男安展委員、大谷幾津子委員、木本凱夫委員、下村猛委員(代理:杉山土木課長補佐)、
関口秀夫委員、武田明正委員、田所照朗委員、谷本勢津雄委員、中西智子委員、
長谷川順一委員、原田増造委員、松尾直規委員、宮本里美委員、山本亮二委員、
渡辺寛委員、渡邊悌爾委員、(竹川博子委員は欠席) (50音順)

【審議事項】

- (1) 櫛田川流域委員会規約(案)について
- (2) 第1回櫛田川流域委員会議事要旨(案)について
- (3) 櫛田川の現状と課題(案)について
- (4) 今後の審議の進め方について

【議事要旨】

1. 櫛田川流域委員会規約(案)について(資料-1)
以下の規約の変更について了承を得た。本規約は、平成15年6月20日から施行する。
 - ・事務局の名称変更(三重工事事務所 三重河川国道事務所)
 - ・松阪市長の交代による委員変更(野呂委員 下村委員)
 - ・委員の所属の変更(竹川委員が青年部会長を辞任 青年部直前会長と変更)
2. 第1回櫛田川流域委員会議事要旨(案)について(資料-2)
 - ・第1回流域委員会の議事要旨の内容について確認し、了承された。
 - ・議事要旨として公開することについて了承された。
3. 櫛田川の現状と課題について(資料-3)
櫛田川河川整備計画の策定に当たり、問題点等を認識するため、櫛田川の現状と課題(案)に対して説明を行った。主な質疑は以下のとおりである。

<河川環境>

櫛田川を特徴付ける場所について

「櫛田川を特徴づける場所」において、防潮堤よりも外側に重要な干潟や砂丘が広がっているが、河口の干潟とは何処までを範囲として想定しているのか。

- ・距離としては河口部 0.0k 付近と考えているが、河口部の干潟として、特に範囲を決めずに一帯を指している。また、事務所では、伊勢湾西南海岸も含めて事業を行っている。

櫛田川の歴史文化について

櫛田川は、豊富な歴史や文化を持っている。

神山神社は伊勢神宮よりも古いという記述は的確でない。現在の伊勢神宮に御鎮座する前のものであり、元伊勢神宮である。

丹生水銀については、軽粉だけでなく、触媒としても利用され、東大寺大仏の建立でも使用されており、経済活動の拠点としても注目される。

袂川ほど原始的な川はない。法田付近には硬い岩盤層があり、袂川は櫛田川の元右岸、現在の櫛田川は元左岸で、真中は大きな中州であった。

斎宮については、平安時代だけでなく、南北朝時代まで続いた。古代中世という書き方が良い。また、名代という言い方はこの時代にはない。

袂川の名の由来は、斎王が年に3回、伊勢神宮にお祭りに行く際、袂を行ったことからきた。櫛田川から神域となるため、都から入るときは櫛田川で袂をした。

下流では川とのふれあいが少ないため、環境整備の上で、水の交通の復活を考えてもいいのではないかと。たとえば、神山の舟遊び等。

- ・櫛田川及び袂川の景観、歴史、文化について、以上の意見を踏まえ、記載内容の修正を行う。

<治水>

水位縦断図

大平橋上流での水位上昇は、河積不足によるものか、それとも河積は十分あるが樹木や橋梁等による流下阻害によるものなのか。

- ・高水敷の発達によりもともとの河積も小さく、さらに大平橋のピア間隔が狭く流れを阻害している。

櫛田川本川 16km から 17km 付近の水位上昇の原因が河積不足によるものか樹木によるものかわかりにくいので、河積はもともと不足しており、それに加えて樹木による影響等という形で読み取れるような表現が良い。

平成6年9月洪水の実績水位と計算水位の関係はどうなっているのか。計算水位と実績水位で検証は行っているのか。

- ・実績水位については平成6年9月洪水の痕跡水位で確認しており、計算水位とほぼ一致している。

痕跡は各地点での最大水位を示しているが、計算水位も同様か。それとも、基準点での流量最大時の水位を示しているのか。

- ・痕跡は最大水位をあらわしているものであり、計算水位も各地点の最大水位を示している。

堤内地盤高と堤防整備箇所について

堤防の整備と氾濫の関係については、ハザードマップ的なものを取り込み判断していく必要があるのではないか。

- ・浸水想定区域図については公表をしており、堤防の整備と合わせて考えている。

漏水について

平成6年洪水で起きた漏水の原因を教えてください。漏水がなぜそこで起こったのか。

- ・発生の原因については、河川の水位が高くなり、水が浸透したものと考えられ、場所や原因については調べます。

蓮ダムの運用と効果について

蓮ダムができて洪水が減ったという説明であったが、資料からは読み取れない。被害のエリアが小さくなったということか。

- ・蓮ダム完成後の出水では、ダムがなければもっと流量が増えていたと考えられる。
例えば、平成6年洪水では、もしダムがなければ、両郡階橋地点で4,000m³/sを越えるような状況にあった。

蓮ダム完成による効果が、平成6年9月洪水を例に示されているが、操作規則見直し後の効果はどのようになっているのか。

- ・操作規則の見直しにより、両郡階橋地点で3,750m³/sが3,500m³/sに低減されることとなる。

蓮ダムの操作規則見直しによって、時間的にどれくらい持ちこたえられるのか教えてください。仮に1,700m³/sがきたらどうなるのか。

- ・どれだけ持ちこたえられるかは、洪水が続けて起こることなど、洪水によって状況が変わってくる。

土砂収支について

土砂流出のデータはあるか。

きっちりしたデータはないと思われる。蓮ダムの流入土砂はデータをとっているだろうが、流域全体となるとよくわからないと思う。

干潟の問題を考える際には、干潟の土砂収支について考えていく必要がある。現在あるデータで簡潔に土砂収支を作ることはできないか。

- ・平均河床縦断面図に示したように、河床状況には大きな変動はないことから、収支的には平衡状態と考えられる。また、ダム流入土砂については、蓮ダムの堆砂対策に示したとおり、堆砂率は0%となっている。

蓮ダムでの土砂採取分は、本来なら海へ行くべきものであり、海への供給が減少していると言えるのではないか。

子供のころから比較すると、河床の玉石が砂利に変わってきており、砂利の堆積は増えているのではないか。

<利水>

減水区間について

立梅堰堤より下流では、冬場は櫛田川本川に水が全くなく、用水路を蕩々と水が流れている状況である。本川への影響と発電の効果を考えると、発電は本当に必要なのか。また、今後見直しを行っていくのか。

- ・発電取水堰では減水区間が問題となるため、水利権更新時に堰下流に維持流量の確保について通知が昭和63年に出ている。ただし、これは減水区間の延長が10km以上を対象としており、櫛田川では減水区間が短い対象となっていない。

発電による経済効果がどの程度かは不明だが、飛び石を伝って川を渡れるほど水量が減っている。この問題について、維持流量を流してもらえるように何度もお願いしているが、どのようになっているのか。

- ・波多瀬発電所(立梅堰堤より取水)は許可更新時に県に意見を聞き、平成15年3月31日に更新しているが、維持流量は流していない。

水利用について

本来の河川流量に比べて、取水量は過大と考えられる。水収支を考えて議論をしていく必要があるのではないか。また、水収支は季節によって整理する必要があるのではないか。

適正な水利用を把握するため、河道の水収支を作成し、情報共有化し、水利用を融通していくことが望まれる。

流域平均年降水量と両郡橋地点流況のデータでは、両郡地点の流量は全体の流量の何%を捕捉しているのか。また、最終的に海に入る流量は何%になるのか。

農業用水の取水は、本川に戻らないのか。

- ・ 農業用水の取水については、本川に戻るものと戻らないものがある。利水に関するデータを整理して示していくよう検討する。

蓮ダムができて上水が取られることにより湧水流量が減少することが想定される。湧水時の両郡の水位についても、蓮ダムの洪水調節効果のイメージと同様に横断面図で示すとわかりやすい。

- ・ 水利用については、以上の意見を踏まえ、資料の追加・とりまとめを行っていく。

水質について

蓮ダムで発生している水質問題の対策は、貯水池内での対策であり、濁水については森林の管理とも関連している。濁水について整理していく必要がある。

アユの漁獲量やアサリの漁獲量についても整理していく必要がある。

COD、BOD、T-N、T-P と土地利用の関係（森林や耕作地等）、また、産業別就業人口や年齢構成等も整理していく必要がある。

蓮ダムの水質は、実質的には大変な状況になっており、直下流では苦情が出ている。安定した水質というのは実感と少しずれているのではないか。

- ・ 水質については、以上の意見を踏まえ、資料の追加・とりまとめを行っていく。

<河川管理>

水質事故について

魚のへい死の原因を教えて欲しい。

- ・ 魚のへい死は、酸欠や病原菌によるものと推定されている。

魚道について

東黒部頭首工は、魚道の遡上環境としては非常に悪い。アユを捕獲して上流へ運ばなければならぬというのは言語道断である。

魚道については、整備計画としてまとめるまでに一定の考え方を示していく必要がある。

- ・ 魚道については、課題としても取り上げ、認識している。

<その他>

『櫛田川』という本がでているので、参考にしてほしい。

4. 今後の審議の進め方について

現状と課題（案）について、今回の指摘事項を踏まえ修正を行い、各委員へ郵送などで送付し、確認していただく。

第3回委員会では、今回指摘事項が多かった利水について重点的な審議と現状と課題についての取りまとめを行う。

以上